

## <金標準、日米の金融政策の違いを受けた円高の悪影響・・・>



(出所：オアシス)

植田日銀総裁は衆議院財務金融委員会の審査開催で「経済物価見通しの実現確度が高まれば金融緩和度合いを調整するという基本スタンスに変わりない」とタカ派発言を行いながら、参院財政金融委員会では内田副総裁発言との整合性について問われると「金融政策運営の考え方について内田日銀副総裁との間で違いはない」と答弁するなど、方向性が定まっていない印象を与えている。ただカンザスシティ連銀主催のFRB年次シンポジウムでパウエルFRB議長は講演で「政策を調整する時が来た」と発言を行い9月のFOMCで利下げを示唆し「物価の安定に向けて一段と前進しながら、強い労働市場を支えるために全力を尽くす」と述べるなど、インフレから景気へ配慮する発言を行っている。そのため9月6日の雇用統計まで利下げ観測を受けた金利低下に伴う円高・ドル安の動きが続くと思われる。特にドル建て金は高値を追い続けても円建て金は、円高の悪影響を受ける状況が強まると見られ、再度11500円へ向けた下値模索の展開には注意が必要と思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の週足のMACDでは、MACDが下げながら、シグナルも下げている。RCIでも短期が下げながら、長期も下げるなどオシレーターは下向きに思える。特に週足が10週移動平均線を下回り続けており、戻り売りの値動きには注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,380,000 円(2024 年 8 月 26 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 8 月 26 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>